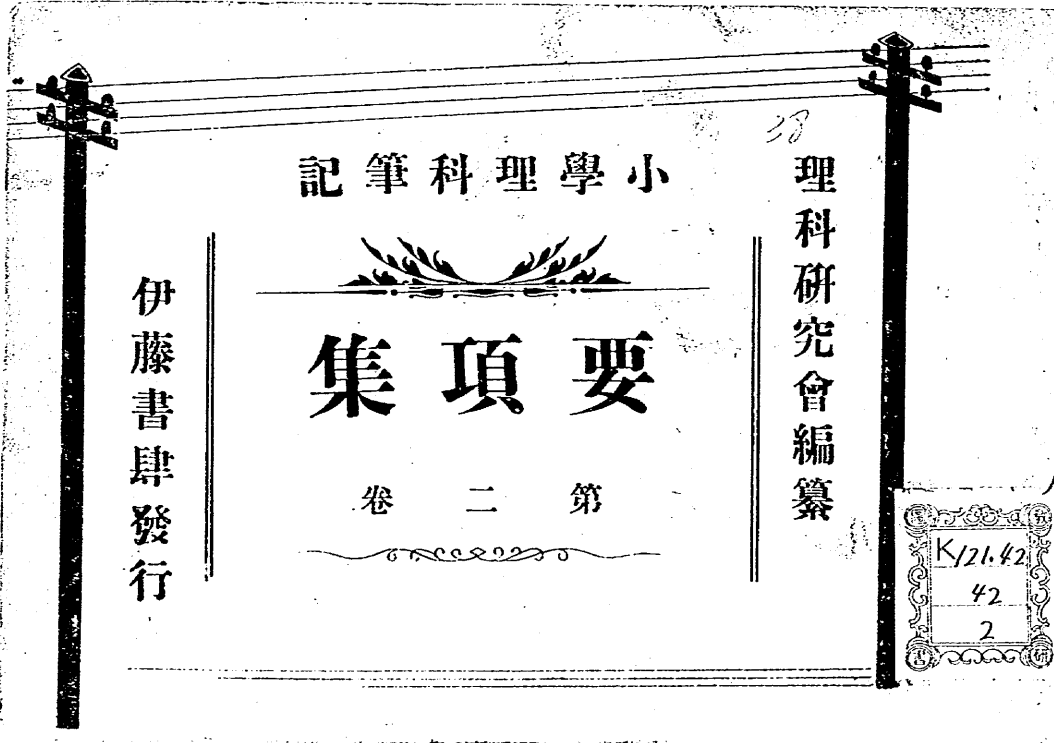


K121.42

42

2



小學理科筆記

要項集

第二卷

伊藤書肆發行

理科研究會編纂

K/21.42

42

2

小學理科筆記要 頂 第 二 卷

一

櫻

形態部分

(イ) 花 萼五、瓣五、雄蕊多数、雌

(ロ) 蕃殖……………蟲媒花(蝶)…鳥散布

(ハ) 葉 托葉 葉身 葉柄

(ニ) 果實、青、赤、紫、サクランボ

種類

(イ) 彼岸櫻 (ロ) 吉野櫻 (ハ) 牡丹櫻

(ニ) 八重櫻 (ホ) 山櫻 (ヘ) 西洋實櫻

(ト) くまがさくら (チ) 泰山府君

(リ) しだれざくら (ヌ) 不願櫻

効用

材質をまかくして、かたさが故に版木其他の器具を作る  
花美なるを以て之をうゑて愛す

附記

一種の毛蟲ありて害すること甚しその發生の初にやきこ



## 二 蟻

### 形態、部分

- (イ) 體は頭胸腹の三部より成る
- (ロ) 足は三對ありて節あり
- (ハ) 黒色にして種類多し

### 習性利害

- (イ) 發育の模様…卵、幼蟲、蟻、成蟲
- (ロ) 共同生活…一の社會を作り共同の生活をなす冬巢の中に眠る
- (ハ) 蚜虫を諸方に運びて其の蕃殖を計るが故に害あり又河底の如きも尙よく隧道を通ず

### 種類

雄蟻、雌蟻、職蟻の三別あり(イ)雌蟻と雄蟻とは夏の初め羽を生じ空中をとびつゝ交尾す其の後雄蟻死し雌蟻羽を失ひて地上におつ(ロ)職蟻は雌蟻の變生したるものにして雌蟻を巢に運びて卵をうましむ

### 記

職蟻は雌蟻と同じく羽なし毒腺ありて内に蟻酸を分泌す

## 三 蚜蟲

### 形態、部分

- (イ) 季節によりて體の色を異にす
- (ロ) 體の後部に蟻管ニありラツバ状をなす
- (ハ) 大抵胎生、蟻が適當なる所に運びて蕃殖を計る

### 習性利害

- (イ) 三月十月頃柔から葉の裏面にすむ
- (ロ) 蚜蟲は自分の甘液を蟻に與ふ
- (ハ) 蟻は其の報として蚜蟲を保護し且つ之をうつして共同生活をなす

(三) 蚜蟲は害蟲なり之を驅除するには敵蟲 テントームシ、クサカゲローを保護し蟻の路をふせぐべし

### 附記

- (イ) テントームシ…幼虫成虫共に肉食性なり蚜蟲を常食とす
- (ロ) クサカゲロー…其の卵は俗にウドンゲといふ幼蟲は蚜蟲を食して成長す

## 四 蜂

### 形態、部分

- (イ) 頭部：觸角：眼：口器
- (ロ) 胸部：足三對：羽二對
- (ハ) 腹部：節：女王と働蜂とに針あり

習性利害

- (イ) 發育：卵：幼蟲：蛹：成蟲
- (ロ) 分業：雌蜂職蜂をひきゐて更に池に巢をつくる
- (ハ) 効用：蜜と蠟を取る

種類

- (イ) 巢蜂……(甲) アシナガバチ
- (ロ) 雄蜂……(乙) クマバチ
- (ハ) 職蜂……(丙) ダンゴバチ
- (丁) アナバチ

附記

- (イ) 巢より蜜房を出して房蓋を去り桶の中の廻轉器にのせてまわせば蜜は遠心力によりて出づ
- (ロ) 巢をくづし麻の袋に入れて熱湯の中に沈むときは蠟はとけて浮びひゆるに従ひかたまるロソク膏薬の料に供す

五 松とマツケムシ

形態、部分

- (イ) 雌花：新芽の頭につくこれ多くの花の集りなり
- (ロ) 雄花：芽のもとに橢圓形をなして澤山つく風ふけば黄粉を出すこれ花粉なり
- (ハ) 松毬：松の果實の熟したるものなり鱗片の裏に二つづつの種子あり
- (ニ) 松の實：其の鱗片あるは遠くとびちらんがためなり

發育

- (イ) 裸子植物：種子に子房なし
- (ロ) 多子葉植物：生初子葉多し
- (ハ) 松ノ幹：子葉の中心發育して幹となる

種類

赤松、黒松、五葉松、トドマツ、偃松

効用

細きものは杭に用ゐる太きものは家屋、橋梁の建築、燭、その他、器具の製造に用ゐる或は薪炭にも供す幹の傷口より松脂を出す石垣の土壘に用ゐる又は水中にあるも永く朽ちず

附記

雄花の花粉は只風の力によりて他の雌花につき始めて實

を結ぶものなりかゝる植物は皆其の花美しからず又香なく蜜なく花粉は軽くかはきて風に吹きちりやすし

### 六 マツケムシ

#### 形態、部分

(イ) 體形：細長き圓筒形にして頭部は割合に小なり關節十二なり

(ロ) 頭部：數箇の單眼あり口には上下の唇と上下の顎とあり

(ハ) 脚部：腹脚：胸脚：爪

(ニ) 警戒色：體色鮮明にして著しきは吾に近づかば毒あり刺ありといふことを敵に知らすためなり

#### 習性ト其害

(イ) 毛蟲は皮をぬぎずて新皮を以て之にかへ以て體の成長をはかる

(ロ) 毛虫は繭を作りて其の中にひそみ蛹の時代を經過するものなり

(ハ) 毛蟲は敵動物に逢へば直に其の體をまさちぢめておち死せる状なり

(ニ) 松類に大害をなすものにして毎年一回の發生をなす

冬は幼虫のまゝ松の皮下木の下のコケにかくる

(ハ) 毛蟲は蛹となり蛾となる蛾は松葉又は枝に卵をうみかへれば盛に松の葉を食ひて害をなす

#### 附記

(1) 蛾の發生したるときは燈火を點じて誘ひ殺すべし

(2) 幼虫の群居するときは焼き殺すべし

(3) 石油乳劑に三四十倍の水を混じホソアにて各樹にそそぐべし

### 七 柑橘

#### 形態、部分

(イ) 葉：綠色にして、ささとがれり

(ロ) 花：白色にして夏ひらき五瓣なり

(ハ) 果實：皮むつくあまけれど少しく酸味あり

#### 種類

(イ) 朱柑：皮赤くして頗る美麗なり

(ロ) 海紅柑：普通のものより大なり

(ハ) 香橘：橘の類にして皮むつく味あまくしてよきにはひあり

(ニ) 橙：味すくしてあまし香殊によくして酢の及ぶ所に

あらず

(ホ) 柚：其の皮に香氣あるを以て味をつくるに用う

効用

(イ) 柑は香味共に美にして汁より酒を製す皮ははして藥

用とす(陳皮)

(ロ) 柚は吸物にそへて食す又砂糖漬として貯ふ

(ハ) 橙：皮をくすべて蚊をふせぐ

附記

(イ) 橘：昔はナチバナといへり今はカウシミカンといふ

(ロ) 柑：昔はカウシミカンといへり今はミカンの總名とす

(ハ) 柑橘は暖國に産す九州四國紀伊に多し昔支那の南部より傳へたり

八鳳蝶

形態、部分

(イ) 頭胸腹の三部よりなり頭部に二本の觸角ありて感覺

嗅覺をつかさどる

(ロ) 口器は時計のギンマイの如く卷くことを得て蜜を吸ふによろし

(ハ) 胸部は三個の關節よりなりその背には美しき翅二對あり

(ニ) 翅は細鱗を以ておははれ鱗片は矢羽狀にして一端翅につく

(ホ) 腹部は數個の環節より成り内臟をつゝむ各節に一對の氣門あり

習性利害

(イ) 若き菜の葉に卵をうむ是幼蟲の食物とするに適すればなり蛹は翅もなく肢もなく細絲を以て葉の裏にくりつく

(ロ) 成蟲は羽化して花粉を運ぶといへども幼蟲は葉を食ひて菜の生育をさまたぐ

種類

(イ) モンシロテフ (ロ) シロテフ

(ハ) シヤマミテフ (ニ) ヒオドシテフ

附記

ヤドリバチ——モンシロテフの幼蟲をたづね其の體に卵をうむ、かへれば幼蟲の肉を食ひて蛹となり遂に蜂となりて體外に出づ

## 九 桑

### 形態、部分

- (イ) 雌木、短き穂状をなせる雌花あり
- (ロ) 雄木、短き穂状をなせる雄花あり
- (ハ) 葉、柔かにして形種々あり

### 發育

春新芽を出す花も亦之に伴ひて生じ初めは緑なれども漸く赤き實となり終に紫色となりて熟す

### 効用

- (イ) 葉は繭を養ふ(ロ)器具を作る(ハ)紙を製す(ニ)皮の纖維發達するものを纖維科植物といふ

### 種類

早、中、晩の三種

### 附記

桑の葉にして質あつく多汗なるは繭を養ふに適し葉うすくして汁液少きは劣れり桑葉が繭の餌となり其の體を養ふに適するは多量の滋養分をふくめばなり

## 十 桑の害蟲

イ、エダシヤクトリ

色は場所によりて異なれども大抵灰色にて脊部は少しく黄赤色をなし桑の外皮によく似たり腹部は黒色にして黒點散在せり而して尾端より漸次前方に細く枝と見分けがたしハサミにて二つにさるか幼蟲を殺すか巢にて燻化せんとするものを中心とする

ろ、カヒガラムシ

- (イ) 成蟲は莖根葉を食すること大なるを以て燈火に集めて殺すべし

- (ロ) 幼蟲は莖を食ふを以て石油乳劑にて殺すべし

- (ハ) 馬尾蜂を保護して天然の驅除法を取るべし

は、其他

クハ羽虫：蛹は地中にて越冬し翌年羽化して成蟲となる動作のろさを以て桑樹をゆすりかちしところをとらへころす

### 附記

クハカミキリの産卵場所は桑樹をかみさうりて其の中に入みつ

## 十一 蠶

### 形態、部分

- (イ) 卵よりかへりたるものは小さき黒き毛蟲にして之をケゴといふ
- (ロ) ケゴ次第に成長して毛をうしなひ灰色の蠶となる
- (ハ) 體は頭部及び十二節よりなる頭部の下面に口あり口中に顎ありて桑を食ふ
- (ニ) 體の側面に呼吸孔ありて之を氣門と稱し呼吸作用をなす

習性、飼育法

- (イ) 皮をぬげる間は食物を取らず頭をあげて眠るこの眠四回ありこれを終りて第五齡となると盛に桑を食ひ一週間位にて十分の成長をとぐ
- (ロ) 成長したるものは籠を作りて其の中に於て繭を作らしむ
- (ハ) 繭の内に蛹となり後に灰白色の蛾となりて出づ
- (ニ) 飼育するには桑葉をえらびて與へ光線、温度、濕氣、空氣の流通等に注意すべし

効用

繭は生絲に製する外幾分か真絲につくりて使はる

昆蟲ノ變態

卵……蟲幼……蛹……成蟲

附記

蛆蠅は桑の葉のうらに一粒づゝの卵をうみつぐるが故に蠶若し桑葉と共に其の卵をのむときは卵は其の体内にてかへりて蛆となり蠶の跡をくらひて成長す

十二 蜘蛛

形態、部分

- (イ) 氣囊を以て空氣を呼吸し頭と胸とは合着し四脚相對して生ず
- (ロ) 毒囊あり之を用ゐて能く餌とする蠋其の他の昆虫を捕ふ
- (ハ) 腹部に肛門あり其の周圍に通常六個の瘤状をなせる突起あり糸を出す
- (ニ) 脚の末端は管に糸を出すに適するのみならず網の上を自在にありくに適す

習性利害

- (イ) 網を作るには風の利用す
- (ロ) 母蟲が其の卵囊を愛すること深し
- (ハ) 種々の害蟲を捕へ食す
- (ニ) 室内の四隅に巢をつくりて塵埃を積らす



(ホ) 稻麥等の葉をまきて巢をつくり作物の發育をさまた

種類

オニグモ、シヨラウグモ 家のかけ樹の間に巢をつく

りて害蟲を捕ふ

チグモ 蟻の如き小形の動物を捕へ食す

ハイトリグモ 蠅をとらへて食す

附記

(イ) テグモ 長き囊の如き巢を造り其の一部はあらはれて他物につき其の他の部分は地中にかくる其の中にかくれ昆虫が伺ひ上るを待ち之をつかみ捕ふ

(ロ) ハイトリグモ 蠅に近づくや一躍して之を捕ふ捕へたる蠅體より大なるときは蠅のために運び去られ一二尺の距離に至ることありといへども大體よりそそ毒液は忽ち其の効をあらはし蠅は次第におとろへてかみころさる

十三 栗

形態、部分

(イ) 雄花 數多集り穂をなして葉のわきに出づ

(ロ) 雌花 雄花のもとにつく十個内外の雄蕊あり

(ハ) 種子 胚乳なく二枚の子葉あり

發育

(イ) 根は多年生にして地中より養分を吸ひ發育を計る老樹高四五丈周圍六七尺

(ロ) 高燥なる丘陵・堅き土壤には最も適し樹幹の發育よるし

種類

タンバグリ、シバグリ

効用

(イ) 材質堅くして地中にうづびるも久しく朽ちざる特性あるを以て鐵道の枕木などに賞用す

(ロ) 之をやきて作りたる炭は火力の強く盛なるがため鍛冶屋にては重に之を用う

(ハ) 建築材として或は器械類製作の材料とす

(ニ) 種子は味美なるを以て燒栗、蒸栗、菓子、栗飯、料理等に用う

附記

(イ) 栗はヤドリキ(一名ホヤ)と稱する植物の寄生により損害をうけ開花結實せざることあり

(H) 果實莖幹等にふくめるタンニン<sup>タンニン</sup>を普く織物、絲類の染料<sup>染料</sup>に供せらる

### 十四 栗の害蟲

S、カミキリムシ

幼蟲——テッポームシといふ幹の内部に母虫卵をうみつけかへりたるものなり木質を食ひて其の生育を遂ぐ母蟲——樹木の内部を切りやぶりて其の内に産卵す銚き口にて材部を喰ひ込む強風にわひて幹の倒るゝもこれによる

ろ、カブトムシ(一名サイイカチムシ)

甲蟲の一種にして上翅かたく中央にて左右正しく相つき合ふ下翅うすくしてとぶに用う木を喰ひやぶりて卵をうみつゝ卵は翌春かへりて幼蟲となる

は、コガチムシ

地中に卵をうみかへりて幼蟲となる地中又は枯葉の下にひとみかくる成虫となりて材部に移りすみ害をなす

に、其他

ノコギリクハガタ

雌は角なし雄はやゝ大にして頭部に角を有し材質を切

りて害をなす

オトシブミ

甲虫にして形やゝ小なれども材質をかみさりて養液を吸収す

#### 附記

栗の幹に銀屑<sup>ニギハクシ</sup>の如きものあるはテッポームシが其の乳よりかみ出したる木屑<sup>キクズ</sup>或はこの蟲の糞にして二三寸の隧道<sup>ミヅチ</sup>を材部にうがつテッポームシはキクイムシともいひて灰色の蛹となり再びかはりて更に長さ觸角ある母虫となる

### 十五 啄木鳥

#### 形態、部分

- (イ) 嘴長く且つ鋭くして樹皮を穿つに適す
- (ロ) 舌細長く出入自在にして先端に逆刺あり
- (ハ) 脚前方に二本後方に二本の趾あり
- (ニ) 趾端に爪あり木をよづるに適せり
- (ホ) 尾羽の羽軸は堅硬にして木を支ふに適す

#### 習性利害

(イ) 樹木の枝幹にすむ蟲を食する益鳥なり

(ロ) 體の構造悉く木をよづるに適應し

(ハ) 枝幹に穴を穿ちて害することあり

(ニ) 森林の害虫を驅除して間接に人生を益す

附記

(イ) 啄木鳥にアカゲラ、アカゲラ、コゲラあり

(ロ) 食を求めながらとびあらく鳥を漂泊鳥といふ

十六 森林ニ於ケル動植物ノ關係

(1) 動物、植物を運びて繁殖すること

(イ) 動物の食となりて散布するもの

ブドリ、ミカン、ヤドリキ等

(ロ) 動物の身につきて散布するもの

ヤブシラミ、コホリ、センダングサ等

(2) 各自生理作用に依り相互の生計を助く

(イ) 動物は空氣より酸素を取りて炭酸瓦斯を返附す

(ロ) 植物は炭酸瓦斯を空氣より取りて食物となし却りて酸素を放出す

(ハ) 森林の樹木には多數の昆虫寄生し而して又其の昆虫に寄生する昆虫もあるべし従ひてキツ、キの如き食蟲鳥もあらん

(3) 植物にして食物を動物に仰ぐもの

マウセンゴケ、ハイチゴク、ムシナモ、タヌキモ、ムシ

トリスミレ、カウシンサウ、ウツボカヅラ

十七 森林ト地質トノ關係

森林の茂生するところは山地なることあり又は平地なることあり之によりて森林を分ちて山林と平林との二種とす然るに地味は概して山地にやせ平地にこえたるが故に農業の開けたる地方にありては平地を田畑にし樹木の培養は主として山地とす然れどもいまだ開けざる地方にありて平地と山地との別なく樹林のあるを常とす  
森林深き地方にある表土は樹の葉などの積み重りて腐蝕してなれる黒土あり黒土は多く植物の腐蝕より成れるものなり

十八 森林の効用

(1) 直接の効用

木材薪炭を供し香藁、松葉、椎葉等の食用物及樟腦、醋酸等の藥品染料を與ふ

(2) 間接の効用

氣候の炎暑を調和し空氣を新鮮にし水源を養ひ洪水をふせぎ土地のある、を防ぐと共に風光のよろしき景色を作る

### 十九 カラスガヒ

#### 形態、部分

- (イ) 貝殻 二枚、石灰質、黒紫色
- (ロ) 貝柱 二個、筋肉質、收縮、閉合
- (ハ) 肉柱 閉開の作用あり、伸縮強張隨意

#### 習性効用

- (イ) 兩殻の間より白き舌の如き肉片を出し其の作用にて殻の一部分を泥中に没し旬ひ始む、外套膜あり
- (ロ) 水中の空氣を呼吸して血液の清化を行ふ
- (ハ) 食物は重に細き生物及び死したる動植物のくだけたるもの等なり
- (ニ) 泥質の池、沼、河、溝等の淡水に産す
- (ホ) カラスガヒには稀に眞珠を有するものあり然れども主なる効用は食物とす

#### 附記

(イ) 田螺 螺形の貝に蓋をそなへ敵にあへば軟き全體

を螺中におさめ蓋をとちて自ら食むる

(ロ) 支那及我が國の海には眞珠質に富める一種あり之をアコヤガヒ一名眞珠貝といふ

### 二十 蟹

#### 形態、部分

- (イ) 石灰質のかたき殻をかぶり筋肉、内臓の如きやわらかきものをまゐる
- (ロ) 甲に一種の色素あり熱湯にあへば直に赤色に變する性質あり
- (ハ) 頭胸部は所謂蟹の甲腹部は七個の節より成りて屈伸自在なり

#### 習性効用

- (イ) 海岸河邊に穴をほりてすむ淡水にすむものと鹹水にすむものとあり
- (ロ) 蟹にて水中の蠕蟲又は蝦、アミ等を捕へ口に持ち來りて食す
- (ハ) 肉は美味なるが故に食用に供せらる然れども至りて腐敗し易し
- (ニ) 苗代田に入りて稻の苗をあらし田の畦に穴をほりて

水をもらすことあり

種類

- (イ) ヲカアシガニ 巨大にして沿海に産す
- (ロ) ベニガニ 蟹赤色河堤に穴をほり岩石の下にすむ
- (ハ) モクズガニ 蟹鼠色の細毛あり穴にひそむ
- (ニ) ガザミ 普通海に産し徑五六寸

附記

- (イ) イバラガニの如く大形のは肉のみを取り罐詰とす又支那にては肉を羹、又は乾したるものを食品として貴重す
- (ロ) 海産のカニには平家蟹、シホマチキ、ドロガニ、マシヤユガニ等あり

二十一 蝦

形態、部分

- (イ) 頭胸部は所謂蝦の甲なり節毎に副器あり
- (ロ) 腹部は割合に長大にして節毎に左右に游泳の副器一對づゝあり
- (ハ) 脚は胸部にあるもの歩行に適し腹部にあるもの廣くして泳ぐに適せり雌はかねて卵をいだけり

習性効用

- (イ) 蝦ありて觸覺の用をなす
- (ロ) 甲と腹との連接部ゆるく伸縮自在なり
- (ハ) 乾燥、摺齧、魷鱈として食用とす

種類

イセエビ、クルマエビ、テナガエビ、シバエビ、シロエビ、シヤロ、アミ、カワエビ

附記

- (1) 清人は塩量の多きもの及び乾燥十分ならざるものは之をいみ殊に體形の屈曲せざるものを厭ふを以て生鮮を用ゐて製すべし
- (2) 乾燥は水一斗に塩二合の割合にて塩水を作り釜の中にて沸騰せしめ蝦を其のうちに入れ煮ること二十分位にて取り出し日にほしたるものなり

二十二 鴨

形態、部分

- (イ) 雄 羽毛美、頭と頸とは美しき黒綠色胸は帯紫色、尾の中央に四個の羽毛ありて上方にまがる
- (ロ) 雌 全身赤褐色、脰や、小、羽毛美ならず

(ハ) 羽毛——脂油を出し水濕をふせぎ体温を保つに用う  
防寒衣、防水衣なり

(三) 嘴——角質、幅廣く、扁平

(ホ) 翼——長大、胸部に強力の筋肉あり

(ニ) 脚——四本の趾を具へ三趾は長くして前に向ひ一趾は短くして後方に向へり前に向へる三趾の間には廣き蹠ありて游泳に便なり

(ト) 尾——方向を變ずる用をなすものなれど鴨はとびゆけるとき急に變ずること能はず

### 習性効用

(イ) 侯鳥にして少しも休まず能く数十里をとよ力あり

(ロ) 水にすむ虫類及び濕草水草の實を食して生活す

(ハ) ヨシ、ス、キ等の莖にて巢を作り上層に羽毛、枯葉をしく五乃至十の卵をうむ

(ニ) 肉美味なるが故に食用として貴重せらる、羽毛は軽く柔なるが故に蒲團に入る

### 附記

游禽類——趾間に蹠ありて游泳甚だ巧なるものをいふア

ヒル、ガン、カモメ、ハクテウ、カモの類をいふ

## 二十三 保護鳥

### 種類

毎年三月一日より十月三十一日まで捕ふことをとゞめられたる鳥

雉、鸕雛

毎年四月十六日より十月十四日まで捕ふことをとゞめられたる鳥

鳩(鴿ヲ除ク) 鶉、鴈、雲雀、椋鳥、鶉、鶉、雷鳥、松雞

### 保護ノ理由

有害動物を捕へ食し田畑の食物を保護し人生に利益を與ふること大なるを以て政府は右の時期を限りて捕ふことを禁じたり之を保護鳥といふ

### 附記

嘴——鈎をなして肉をさくに適す

爪——するどくしてかきをなせり

眼——眼力強く數十間の上より地上の餌をみとむ

翼——跡の割合より大なり故に足に他の動物をつかみつゝとよこと容易なり

尾——かぢの用をなし方向を左右に變化す

効用——鮮肉より腐肉をこのみ小さき動物の死せる  
を見れば食す故に衛生上有益の鳥なり

### 二十四 鯛

#### 形態、部分

- (イ) 色うすわかし、跡や、みぢかく、兩面ひらたし
- (ロ) ウロコ、ヒレ共にかたく、セビレにはするるときトゲあり
- (ハ) 頭大きく口にとがれる齒あり

#### 習性

- (イ) 近海に來りて卵をうみつゝ
- (ロ) たいはとりたる後腹部ふくれるを以てあらかじめ針にて瓦斯を除く

#### 効用

- (イ) 味美にして淡泊なり、祝事に用ふこと多し
- (ロ) 乾鯛、鯛味噌、漬焼、春割とす貴重魚類なり

#### 種類

- (イ) まだい——寒冷のときは沖合の海底にあり春夏の頃より淺き所に來り暑中に最もあさき所に來る
- (ロ) コメイ、ヤクイ——沖合の海底にあり多くつりをを用

ぬてとるものなり

- (ハ) クロメイ、オキツメイ等あり

#### 附記

近海魚——鯛の如く近海に來りて生活するものをいふ

### 二十五 ヒラメ

#### 形態、部分

- (イ) 體、極めてひらたし右方は白く左方はうす黒くして兩目この方にならべり
- (ロ) 常に右方を下にし砂の色の如き背のいろをなす
- (ハ) 兩へりに一連のやはらかなるヒレありおよびことつたなし

#### 習性

- (イ) 敵に逢へば砂をかうむりて跡をかくす
- (ロ) およぐには跡をひらたく上下す海底の砂あるところにすむ食をむさばる性あり

#### 効用

油少くして食するに淡泊なり産後の婦人の食用とす

#### 附記

ヒラメニ似たるものにカレイありヒラメよりは跡大にし

て淺き所にすむ

### 二十六 烏賊

#### 形態、部分

- (イ) 腕——長さもの二本、短きもの八本
- (ロ) 口——腕の間にありトロンビ、カラスを有す
- (ハ) 吸盤——腕には悉くこれあり岩石につき又食物を口に送る用をなす

(ニ) 頭——口及び眼のある部分なり

(ホ) 鰓——胴の後端にあり水をふよぐとき甚だ有用なり

#### 習性

- (イ) 進退——平素頭を上にし動くときは頭を下に即ちち泳ぐ時は胴の下面にある漏斗状のものより水を出して反對の方向にすゝむ

皮の色——住所に従ひて其の色を變じ敵の眼をくらます

食物はエビ其の他の小魚類なり

#### 種類

スルメイカ、ヤリイカ、ヤリケン、マイカ、ハリイカ

#### 効用

- (イ) 肉は煮て食ふ又醃とし或は餵とす

(ロ) 墨汁にてセピアと稱する繪の具を作る

(ハ) イカの甲より粗製齒磨をつくる

#### 附記

- (イ) 軟体動物——胴に墨汁ありて敵の害をふせぐ然れども脊骨なく只イカの甲と稱するものあり全胚柔さものをいふ

(ロ) イカの大部分は不消化物なれば其の料理には特に注意を要す世にツコを食ひて生命を失ひしものあり

### 二十七 鯨

#### 形態、部分

- (イ) 鯨鬚——齒の代用をなしスヰノの用をもなす
- (ロ) 口——割合に大きく一たび開きて數百の水母、エビ、カニ、小魚口中におどり入る
- (ハ) 尾——魚類と異にして横にひらたし
- (ニ) 眼——甚小にして口に近く噴水口二あり

#### 習性

- (イ) 温血にして胎生なり
- (ロ) 寒き地方にすみ且つ大なるものあり

#### 種類



- (イ) マッコークジラ 〓 タコ、イカを好む
  - (ロ) セミクジラ 〓 全身くろく腹部白し
  - (ハ) イワシクジラ 〓 鰭をおそひきて漁者を利す
  - (ニ) ザトウクジラ 〓 鰭にコブあり本邦の産なり
  - (ホ) 長鬚鯨 〓
  - (ヘ) 長鬚鯨 〓
- 共ニ朝鮮近海に多し

効用

- (イ) 鯨油を作りて工業用となす鯨肉は食用に供す
- (ロ) 鰭鬚及骨は種々の器具をつくる

附記

このごろ山口縣捕鯨船ならびに長崎縣捕鯨船は韓國蔚山灣長承浦を根據地として捕鯨に従ふとれだか多くして甲は百三十二頭乙は五十八頭なりといふ而して青鯨鯨にて一頭千圓以上長鬚鯨にて一頭七千圓以上なりといふ

二十八 昆布

形態、部分

- (イ) 花わらはれざる植物にして海中の岩石につきて生ず  
大なるものは幅一尺餘長さ十間
- (ロ) 本は根の形をなし他の部は葉の形をなせども根、葉、

葉の區別なし

發育

地上の植物の如く養分を吸ふにわらず其の葉の形をなせる部分全面より水中の養分を吸ひ取る

種類

- (イ) ホンコンブ 〓 渡島、陸奥に産す
- (ロ) ナガコンブ 〓 清國に輸出す
- (ハ) ホツメコンブ 〓 刺昆布に作る
- (ニ) ナガミコンブ 〓 粘液に富む
- (ホ) 白髪昆布 〓 ホンコンブより製す

利害

- (イ) 焼きし灰より沃度をつくる
- (ロ) 粘氣ありて、あまければ廣く食用とす
- (ハ) 昔より之を祝賀に用ひ支那人は之を好み年々我より百万圓餘を輸入す

二十九 海苔

形態、部分

- (イ) 藻類にして莖、根、葉の區別なし
- (ロ) 海草にして岩石につきて近海に生ず

發育

胞子によりて蕃殖し全胚水中より養分を取りて成育す

種類

- (イ) アチノリ——淡鹹雨水入り交る所に生ず
- (ロ) 淺草ノリ——海中にソメを立て、生育を計る
- (ハ) フノリ——さらしほして織物を作るに用ふ

利害

アチノリ——香よろしく味をつくるに用ふ

淺草苔——すし等をつくり酒の肴とす

附記

- (イ) ワカメ——長さ二三尺食用に供す
- (ロ) アラメ——切荒布として食用とす
- (ハ) テングサ——トコロテンを作り三島ノリを作る
- (ニ) ツノマタ——ほして糊にし泥工之用う

三十 珊瑚

形態、部分

(イ) 樹形をなし生活するときは周圍にやわらかき赤色質ありて蟲はあまた之よりつき出で其の色白さを以て恰も赤き幹に白き花をつけたるが如し(赤珊瑚)

(ロ) 島嶼をつくるものは石灰珊瑚又は六射珊瑚といひて白色なりとす

習性

あつき海中に繁殖す我が國にては土佐に産す地中海にも亦之を産す岩石より樹枝の如くつき出で無數の小蟲附着す

種類

アカサング、シロサング、洋珊瑚、クダサング

効用

其の骨髄を細工して裝飾に用う珊瑚の死殻つみて島嶼をなす

附記

やぎ——琉球サング——赤きものと黄なるものとあり石灰質より成る酸性の液をつくるときは美麗なる色を呈す

ヒハカライシ——石灰質にて樹枝状をなす六の觸手ありサング島をなすものなり

三十一 海綿

形態、部分

(イ) 浴用海綿は其の中層に發生せる骨髄のみなれども生活する間は其の内外にやわらかなる肉ありて之をおほふ

(ロ) 海綿の表面に無數の細孔ありて悉く内部の胚毛室に開き水及食物を引き入るゝ用をなす

習性

(イ) 胚毛室に入りし水は溝によりて中腔に流れ込み之より一大孔により外に排泄せらる

(ロ) 出芽の方法によりて多數の虫相連りて結合體をなす群體は杭若しくは水中に散在せる枯木につく

(ハ) 多くは海産なれども又淡水の池溝に産するものあり

種類

(イ) 醫科用海綿——最も上等のものにして地中海に産す角質海綿とも稱す

(ロ) 馬海綿——沐浴に使用す稍劣れるを以て價やすし骨髄は角質なり

(ハ) カリナ——日本に多く産する海綿なり多少沐浴に使用す骨髄軟かなり

(ニ) りにゑら——海岸の岩石等につき質脆く橙色を呈す日本に多く産す

効用

醫科之を使用し沐浴に用ゐる斬髮屋なども多く之を使へり

附記

沐浴海綿は地中海の東部及び大西洋のバハマ島などに産す其の纖維の極めて柔かなるものを貴ぶ我が相摸洋には硅石海綿多く出づるを以て世界に名高し

三十一條 蟲

形態、部分

(イ) 長さ十五六尺より三十尺に達するものあり節は三千より四百二百の多きに至るものあり一端は極めて細くして小なる頭を有し他端に近くに従ひて其の太さを變す

(ロ) 色薄黒く外部に卵集れり之を以ても繁殖力の強きことを知るべし頭と頸との區別なく扁平なれども横に溝あるをみとむこれ腸にすひつく

習性發育

(イ) 體の全面より腸の内にある養液を吸ひ取りて成育す其の幼蟲は僅に二十日にして一丈餘の成虫となる

(ロ) 人の體外に出でたる卵は水中に入り發育して幼虫と

なる幼虫は小さくして球の如く表面に無数の毛ありて遊ぶ

(ハ) 幼虫は鯀鱈等の食管の内に入り糞虫となりて筋肉の内に入り其の體中に宿る人若しその生肉を食ふときは腸に寄生して成長を始む

種類

(イ) 有鉤條虫 四個の吸盤と二十餘個の鉤とを以て腸につく

(ロ) 無鉤條虫 四個の吸盤あれども鉤なし

(ニ) 裂頭條虫 頭は扁平にして吸ひつくためのわさき溝あり

其の害

(イ) 徒に人體の營養分をうばひとられ消化の作用を害せらるゝものなり

(ロ) 腹痛、下痢、嘔吐、不順の食慾、眩暈、動悸、頭痛、言語錯雜、五管の遲鈍

附記

驅除法

(イ) 絶食して腸をからにし塩漬の魚、酢の物葱などを食ひて條虫を痲痺せしめ次に綿馬根、テレピン油等を

服す

(ロ) 牛、豚、鯀、鱈等の肉をなまにて食はず又其の半熟のものをお食はずして豫防すべし

三十三 蛔虫

形態、部分

(イ) 節なくして兩端とがり細長き一片なれども皮膚は甚だあつし

(ロ) 口は體の前端にひらき食道の末端は、まゝふくれ球のかたちをなす

習性其害

(イ) 小人大人の腸の中に寄生して養分を吸ひ取りて生をたもつ

(ロ) 飲料水若くは居室の席等に卵ありて食物飲料と共に人體に來りたるものなり

(ニ) 腹痛、空腹を感じ、氣息くさく胸の色赤くなる、若し之をすてかくときは病根となるに至るべし

附記

之を驅除するにはセメエンをのみ空腹にしてこまらずべし豫めふせぐには十分煮たるものを食ひ一切水類を用ゐ

ざるをよしとす

### 三十四 蚤

#### 形態、部分

(イ) 翅なくとも後足ながくしてよくとぶ三胸節皆別々にして口は細く肉中に入るゝに適す

(ロ) 體赤くしてやゝかたき皮をかふる

#### 習性、發育

(イ) 掃除の行き届かざる夜具、たゞみの間などの塵ぶかさ中に卵を産む

(ロ) 卵かへりて後蛹となる蛹は親の蚤と同じ形をなせり十一日にして成蟲となる

#### 種類

(イ) 人體にすむものと獸類にすむものと植物に寄生するものとあり

(ロ) チノミ——瓜類につきて害す塩をかけ去るべし

キスツノミ——蔬菜類を害す

オホダイコノミ、ダイコノミ等も十字花植物に害をなすこと大なり

ムギノミ、ムギノルリノミ、ムギナガノミ、アサノ

ミ、アイノミ、シワノミ等あり植物の害虫なり

#### 其害

(イ) 南瓜のチノミの如きは、若き葉に害を加へ圓形の孔をわけ枯らしむることあり

(ロ) キスチノミの如きは葉を食害すること大にして日中は活潑にして躍ふこと巧なり

(ハ) アイノミの如きは早春甘菜及藍畑にあらはれ若葉を害すること甚盛にして農家の困却する有数の害虫なり

#### 附記

##### 蚤の驅除法

(イ) のみとり粉を周圍にまきて蒲團の中にてよわらすべし

(ロ) 日中はよくとぶを以て鳥モチに五倍の魚油若くは種油を煮こむべし

(ハ) 砥石劑か石油乳劑を用ふべし

(ニ) チノミはすべて雨、露をいむものなればしばく水をそぐべし

### 三十五 猫

形態、部分

- (イ) 體にやはらかなる毛をかうむり甚だみがるなり
  - (ロ) 前足に五つ後足に四つの趾ありて足のうらにあつくやはらかなる肉をつく
  - (ハ) 爪はカギの如くにて引きかさ又よぢ上るに便なりと  
Sへとも常にはかくせり
  - (ニ) 耳は動きて甚ださしく眼は圓くして極めてするとし
- 習性
- (イ) ヒトミは時にしながひて形をかへ正午最もほそし
  - (ロ) 門齒は少さく犬齒、臼齒は甚だするどくして肉をは  
ひに適す
  - (ハ) 舌には後に向へる多くのトゲありて物をなめとるに  
よし
  - (ニ) 八つの乳房あり兒をそだつに乳を用ふ胎兒となりて  
うまゐる

効用

- (イ) 鼠を捕へしむるため人家に養ふ
- (ロ) 毛皮は剥ぎて敷物となす
- (ハ) 皮を三味線の胴に用ふ

附記

(イ) 哺乳類——胎生にして乳を以て子をそだつるものを  
Sふ

(ロ) 養蠶業の盛なると共に之を飼ふもの多くなれり

三十六 犬

形態、部分

- (イ) 前足に五つ後足に四つの趾ありて爪をつく
  - (ロ) 犬齒、臼齒共にするどく肉をかみきるにかなへり
  - (ハ) 毛は時を定めてぬけかはり夏にうすく冬にあつし
- 習性
- (イ) 走ること早く人になれやすし
  - (ロ) 鼻大きくかゝ力強し

種類

和犬、洋犬、エスキモ犬、拂林狗

効用

- (イ) 夜中家の門を守る
- (ロ) 獵師につきてかりを助く
- (ハ) 寒國にては襦をひかす
- (ニ) 人又は荷物をひきて人力を補ふ

附記

- (イ) 牧畜家は犬を飼ひて家畜の番をなさしむ
- (ロ) 狂怒病にかゝるときは人に毒を感せしむ

### 三十七馬

#### 形態、部分

- (イ) 長さ頸にクテガミあり尾の毛最も長し
- (ロ) 足は細く長くして一つの蹄あつく
- (ハ) 齒は上下の門齒よく合ひ犬齒は小さく臼齒は大に且つ面にヒヅあり

#### 習性

- (イ) 走ること甚だ早く力強く性人になれやすし
- (ロ) 草食の動物にして口能く地面にとゞきて草を食ふ
- (ハ) 耳を自在に動かして音響の來る方向に向はしむ
- (ニ) 長大なる尾をふるひて虻、蚊の如き害虫を拂ひのぞく

#### 種類

馴馬、野馬、驢、騾

#### 効用

- (イ) 人頭の奴隸として各種の勞役に服す
- (ロ) 馬糞は温床をつり肥料として効多し

(ハ) 肉は食用とし皮は種々の革細工にす

(ニ) 血液及骨は肥料とし蹄は裝飾品の製作に用ふ毛も器物をつくるに用ふ

#### 附記

- (イ) 騎馬用のものは脚長くして丈高く胸部ひろくして呼吸器の發育よろしく性質敏捷なるものを可とす
- (ロ) 力役用のものは脚太短くして丈低く臀部ひろくして力殊に強さを可とす

### 三十八牛

#### 形態、部分

- 頭部 二つの角あり角は空洞なり
- 脚部 四趾 二蹄大 二蹄小
- 尾部 細くして末に毛あり
- 切齒 シタアゴに門齒、犬齒あり

#### 習性

- 反芻 胃四個あり、一旦のみ下したる食物を再び口に返して細にかむ
- 性質 遲鈍なることは敵よりのがるゝに足らず是少時間多量の草を胃に入れ危害なき所に退き反芻

種類

- (イ) 乳牛、肉牛、役牛
- (ロ) 水牛、犁牛、野牛

効用

- (イ) 肉と乳とは養分多き食用なり
- (ロ) 皮は靴、鞆、鞍其の他種々の革細工
- (ハ) 角、骨、毛皆用方ありて一もすたることなし
- (ニ) 人の奴隸となりて力役に服す

附記

- (イ) 氣候温和にして草多き山地に適す
- (ロ) 山地は脚發育よく關節大にして力役に適す

三十九 鶏

形態、部分

- 翼 小にして遠くとぶこと能はず
- 爪 雌雄共に鋭くして地をさばくによし
- 嘴 雌雄共に強くして餌をついばむによし時々嘴を羽中に入れて羽虫をとる

習性

雄 形大にして羽毛美且つ肉冠又は毛冠ありてよくうたふ

雌 小にして羽毛美ならず尾短くして立ち雛をそだてて慈愛ふかし

種類

- (イ) 卵をうましむに適するもの(クキン)
- (ロ) 肉をとるに適するもの(カシツ)
- (ハ) たゞかはしむに適するもの(シヤモ)

効用

- (イ) 卵と肉とは滋養の効あり
- (ロ) 雄は時をつげ吾等の早起を促す
- (ハ) 農家にては穀類の無益とならざる利あり

附記

雌雛に種卵をだかしめ巢につかしむかくて餌と水とを與へおけば大抵二十三日にして雛となる

四十 アヒル

形態、部分

體 水中に入りて餌をもとむる鳥故舟に似たり趾の間は蹼あり



頸——長くして自在に上下に動く大なり

嘴——ひらたくして泥中の餌を取るに適す嘴を羽毛に入  
るゝは脂肪を出して全身にぬらんがためなり

習性

足ひろさが故にアヒロといひわゆることおとし雌は羽毛  
稍美しく鳴聲あし、魚、蟲、水草などを食とす

効用

肉も卵も共に滋養の効あり羽毛も亦功用あり

附記

アヒルは自ら卵をかへすことをせずアヒルをふやさん  
は雞をしてかへさしむ

四十一 動物の利用

役用動物

牛馬——我が内地にて農夫の使用するものなり

駱駝——沙漠地方にて隊商の使ふものなり

水牛——我が琉球、臺灣等には力役とす

驢、騾——支那の内地にて使用する動物なり

象——印度、シヤム等に力役す

肉用動物

豚——支那地方には養ふこと多し

雞——滋養の効多く美味の能あり

牛——牛肉を得るため飼養す但馬牛名高し

乳用動物

牛——牛乳は滋養に富めるを以て養ふ

山羊——山羊の乳は割合滋養の効多し

犏牛——牛の一種、西藏に産す乳良質なり

工藝動物

犏牛——清國官帽の裝飾に用う(尾)

駝鳥——禮帽の前立、椅子、寢室の中に入る(羽)

綿羊——毛より肩掛織物などを作る

愛玩動物

鳴禽類——美聲を發するを以て籠に入れ養ふ、ウグイス、

コ、イ、ヒ、バ、ツ

金魚類——瓶、池などに入れて目をたのしませしむ

其他

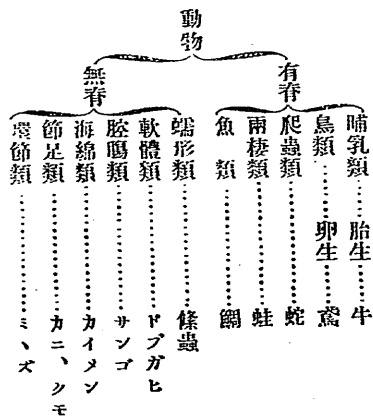
犀角を醫療用とし、麝香を防臭劑に用ひ鯨油を燈火用と  
す

附記

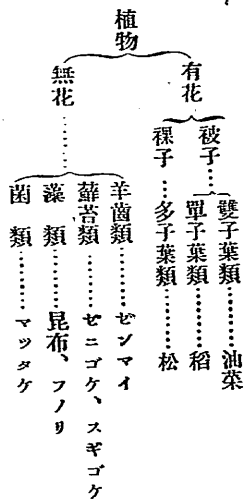
人類は多くの生物の中に秀で、生物無生物一切を我が有

とし其の性質によりて之を利用す

### 四十二 動物の分類



### 四十三 植物の分類



### 四十四 地球の表面

#### 地殻

- (イ) 地球はあつき皮を以ておははれ人類動物植物其の上はすむこの皮を地殻といふ
- (ロ) 地球の表面は高低一ならず地殻のあつさは四五十里とさひ又は七八十里といひ或は百里といふ
- (ハ) 地球の皮は岩石よりなる岩石は御影石の如きかたきもののみならず土壤砂礫をもいふ
- (ニ) 地球は楕の如く北と南との兩端は北極南極とさひ此の兩極に扁圓なり

#### 岩石

- (イ) 火成岩——地球の内部にありて高き熱のためとけいで、かたまれるものをいふ玄武岩、花崗石は其の例なり
- (ロ) 水成岩——岩石のくだけしもの潮次水底に沈みてなりしものにて粘土、砂岩の如きは其の例なり

#### 鑛物

鑛物集りて岩石を作る地殻は鑛物より成れりといひて可なり水、空氣も亦これ鑛物なり生活力なくして成長せず固體、流動體、氣體の三體をなせる天然に生ずる無機物

に外ならず

(イ) 結晶——一定の形をなせるもの集りて成れるものを

いふ水晶、方解石の如きは是なり

(ロ) 非晶形——一定の形を有せず不規律にして曲面より成れるものをいふ蛋白石、褐鐵礦の如きは是なり

### 土壤の生成

土壤は鋤鍬の常に入り込みて作物の成育に適する地殼の一部をいふ作物の成長せざる地は土壤といはず岩石のくだけて成りしものなり岩石をくだして作物の栽培に適することにしものは生物、水、空氣の三者なり

(イ) 風化、霧爛——風雨の作用によりて岩石に變化をおこすをいふ

(ロ) 平坦なる地面に於て植物こゝに根を下して次第にしげり其の老廢物をわたふるときはいよゝゝ岩石の分解を促して土壤をつくるに至るなり

### 水の循環

水は大洋及陸地の表面より常に蒸發して水蒸氣となり空氣中にうかび、かたまりて雲となり露となり又雨となり再び地上に降りて泉となり川となる高山又は高緯度の地に於ては更にこぼりて氷河となり遂に又流れて海にかへ

り循環してきはまりあることなし

### 雲

わたゝかにして、しめりけ多き空氣流動して、さむき空氣にあふか若くは上にのぼりて空際に至りひゆるときは其の内にふくめる水蒸氣はかたまりて雲となる故に雲はこまかき水分子のあつまりより成れるものといへども冬もしくは空際高きところには雪片よりなれるものあり

(卷雲)

### 雨

雲を作れる水分子の量著しく増加するときは重量まして遂に降りて雨となる雨は地上に來るまでには多くの水滴をつけ集め他の蘆芥及瓦斯體をもふくみて下るものなり

### 露

大氣(空氣)中にふくめる水蒸氣夜間冷えて氣體のまゝ保つこと能はずかたまりて木葉、石塊等につく之を露といふ故に雲深くして地面の溫度をささぬ夜間には露をひすふことなし

### 霜

大氣中の溫度非常に下りて氷點下にいたれば露は其の狀を變じて一層かたまりて霜となる霜柱は霜と異なれり水

分を多くふくめる或る物體の面上に於て其の水分次第に水りて柱狀に面外に生長するものを霜柱といふ

雪

大氣の温度若し氷點以下にあるときは水滴こほりて六出放線狀の美麗なる結晶片となるべし之を雪といふ雪は元來無色透明なるものなれども其の白色なるは雪片間に大氣をふくめるによるなり高緯度地方の海面に於ては年中雪あり低緯度の地方といへども地表を去ること高きに從ひ温度減じて四時雪をいたゞくを見る

霰

空氣中の水蒸氣急にはげしく、こほりて球の如き氷のかたまりをなし地面に降るものあり之を霰といふ

氷

水の氷點下に達してかたまれるものを氷といふ日蔭の地には氷の結ぶことも多し函館の五稜廓より出づる氷は其の名頗る高し

空氣

空氣は我が地球をつゝめる瓦斯體にして無色透明なれども其のあつき屑をのぞむときは青色なり成分は窒素、酸素、アルゴン、シリプトンとの混合よりなる又水蒸氣、

## 四十五 地球の内部

地熱

炭酸瓦斯、アムモニア、オゾン、酸類の瓦斯、バクテリアを含む生物には一日として缺くべからず

地球は外より太陽の熱をうくるほか尙固有の熱あり之を地熱といふ火山の破裂するとき地中より熱したる熔岩流れ出で或は火山なきところにては地中の深きところをめぐれる水は高き温度ありて所謂温泉となりわき出づ又鑛山、鑛井等にありては地中の深きところにすゝむに従ひだんだん其の温度を増すを感ず是れ地球の中心に高熱あるを知るべし

火山

地球の内部は非常の熱度にて岩石もとけ居る故に地下にしみこみし水深く熔岩で達する時は、たちまち蒸氣となりて甚しき容積をまし、こゝに非常なる壓力を生じ地殼若し弱き所ありてさけ目あらば途をもとめて地表に噴出す之即火山の生ずる所以なり火山とは一條の管にて地の内外をつらね岩漿、水蒸氣及其他の瓦斯體を噴出するものに外ならず

火山 塊状  
 單成火山  
 層狀 複成火山

### 温泉

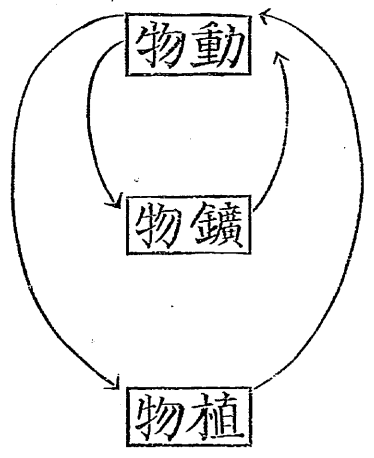
地下水の高温度をうけて地表に湧き出づるものにして火山地方殊に多し本邦には温泉極めて多し温泉の中時を定めて水蒸気ならびに温き水を噴出するものを間歇泉といふ伊豆の熱海陸前の鬼首に其の例あり、すべて温き水は冷水よりも鐵物をとくす力強きものなり故に温泉には數多の鐵物をよくむ

- (イ) 硫黄泉 多量の硫化水素をふくむもの  
 (例) 箱根葦の湯
- (ロ) 塩類泉 多量の食塩、硫酸曹達あるもの  
 (例) 箱根宮の下の湯
- (ハ) 炭酸泉 多量の炭酸をふくむもの  
 (例) 紀州龍神の湯
- (ニ) 酸性泉 亞硫酸、塩酸等あるもの  
 (例) 上野草津の湯

### 四十六 自然界の總説

自然界 (動物……有脊動物、無脊動物、植物……顕花植物、隠花植物、礦物……岩石、金屬、空氣、水)

人類は自然界に存在せるものを利用して飲食に、衣服に、家屋、家具、其の他一般の工業に燃料及び點燈用に薬用及び醫療用に、娯樂及び裝飾用に供す  
 動物は食物と植物礦物若くは動物に仰ぎ植物は礦物若くは動物に食物を仰ぐ相互の關係左の如し



明治三十八年五月十日印刷  
全 三十八年五月十六日發行

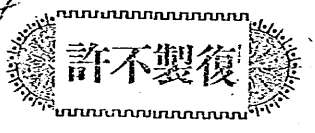
編者 理科研究會

印刷者 伊藤善太郎

三重縣四日市  
百三十一番地

發賣所 豐住書店

津市地頭領町



K1354  
13/238

